

年号：2005 年

月日：9 月 3 日～8 日

災害名：台風第 14 号、前線〔南部九州斜面崩壊〕の概要

大淀川位置図



出典：国土地理院

【平成 17 年 9 月台風洪水（台風第 14 号）の概要】

- ・大型で非常に強い台風 14 号は、宮崎県内を暴風雨域に巻き込みながら、九州の西の海上をゆっくりとした速度で通過し、山地部を中心に総雨量が 1,000 mm を超える記録的な豪雨が発生した。
- ・この台風は 9 月 3 日から 8 日にかけて猛威をふるい、人的被害は大分県で死者 1 名・行方不明者 3 名、宮崎県で死者 13 名、鹿児島県で死者 5 名となった。建物被害は家屋全壊が熊本県 1 戸、大分県 6 戸、宮崎県 1,104 戸、鹿児島県 53 戸、床上浸水が福岡県 4 戸、熊本県 52 戸、大分県 296 戸、宮崎県 1,462 戸、鹿児島県 269 戸発生したとされている。
- ・県内でも記録的な豪雨をもたらし、連続雨量は青井岳で 1,144 mm、霧島 1,374 mm も達するなど、3 日間で年間降水量の 1/3 超を記録した。
- ・この雨により、基準地点柏田で 9.89m、上流樋渡地点で 10.65m と計画高水位を上回る観測史上最高推移を記録する等、大規模洪水の発生により大淀川水系の広範囲で洪水氾濫による甚大な被害が発生した。

▼平成 17 年 9 月台風洪水による大淀川水系の被災状況

流失及び全半壊戸数	3,055 戸
床上浸水	3,834 戸
床下浸水	872 戸
浸水面積	3,321ha

【平成 17 年 9 月台風洪水の被災状況】



▲都城市金田地区



▲都城市金田地区高城町有水地区



▲宮崎市高岡町内山地区



▲宮崎市高岡町麓地区

出典：大淀川水系河川整備基本方針（変更）（平成 30 年 6 月）

【平成17年9月台風洪水の概要】

洪水の概要

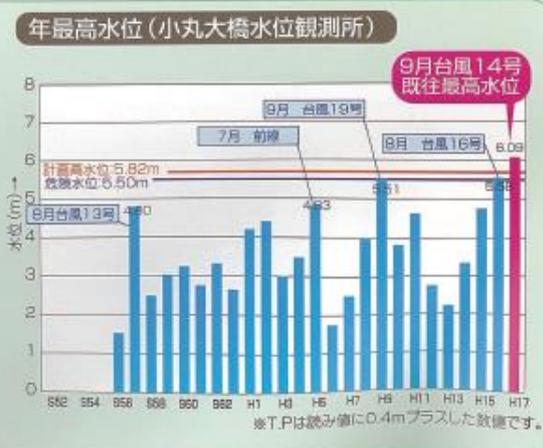
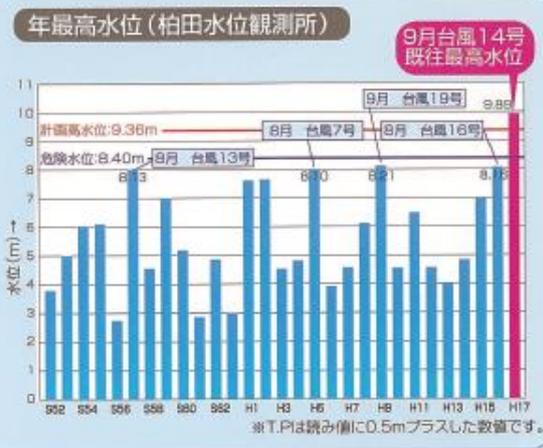
平成17年9月6日、大型で非常に強い台風14号は宮崎県内を暴風雨域に巻き込みながら、九州の西の海上をゆっくりとした速度で通過し、県内に記録的な豪雨をもたらしました。

宮崎県南部は5日午後6時に暴風域に入り、大淀川水系三股観測所で1,356mm、小丸川水系神門観測所で912mmに達するなど、3日間で年間降水量の1/3超を記録しました。

このため大淀川・小丸川水系の各河川においては河川整備の基本となる「計画高水位」を上回る洪水となり、宮崎市、都城市、高鍋町などで多くの家や田畑が被害を受けました。



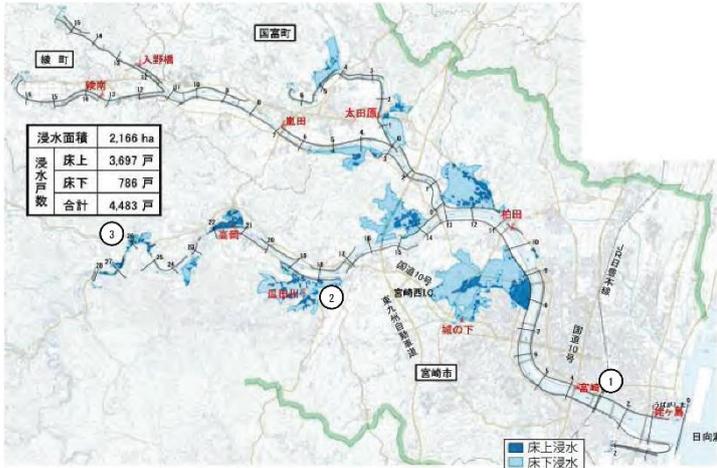
宮崎県では、えびの市、南郷村で総雨量1,300mmを超過。南九州地方の年平均降水量2,491mmの約半分が3~4日間で降った計算になります。



出典：水害の記憶（出版年不明）【国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所】

【平成 17 年 9 月台風洪水の被災状況】

(1) 被害状況（下流部）



①宮崎市吾妻町
大淀川左岸 2k800

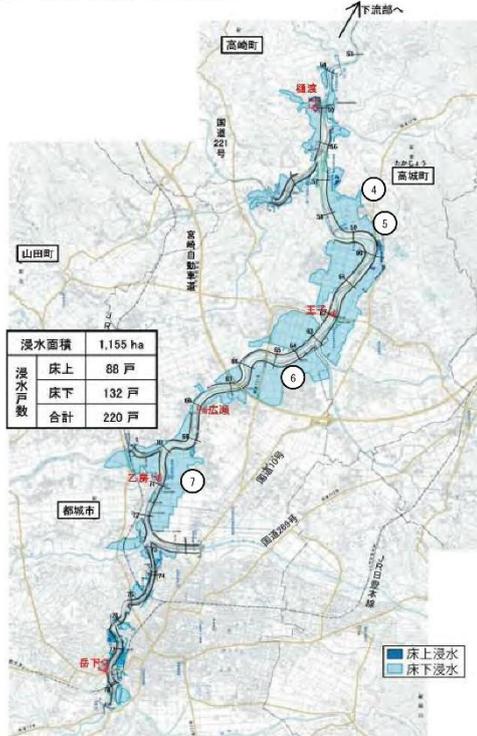


③宮崎市高岡町赤谷
あかたに
国道 10 号
大淀川左岸 26k000



②宮崎市高岡町 麓
ふもと
主要道日南高岡線
大淀川右岸 18k000

(2) 被害状況（上流部）



④高城町



⑤高城町石山
国道 10 号
大淀川右岸 59k200



⑥高城町
高木橋付近
大淀川右岸 64k100



⑦都城市
高木原揚水機場
大淀川右岸 70k900

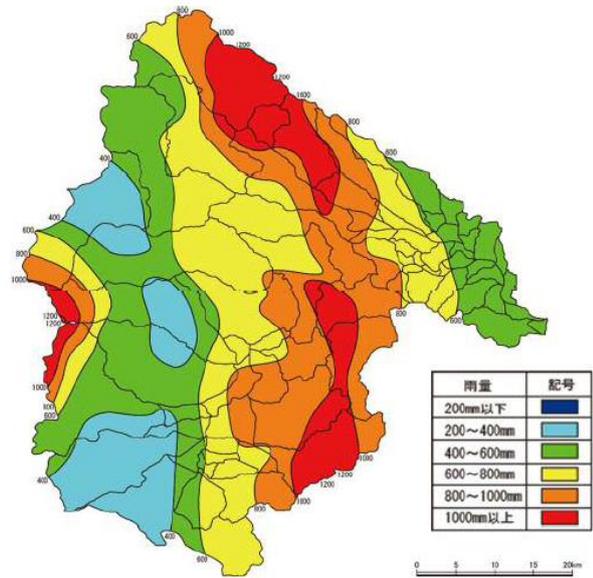
出典：大淀川水系河川整備基本方針（変更）（平成 30 年 6 月）
[国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所]

▼平成 17 年 9 月台風洪水時の台風経路図及び等雨量線図（9 月 5～6 日）

台風経路図



等雨量線図
(48時間雨量)

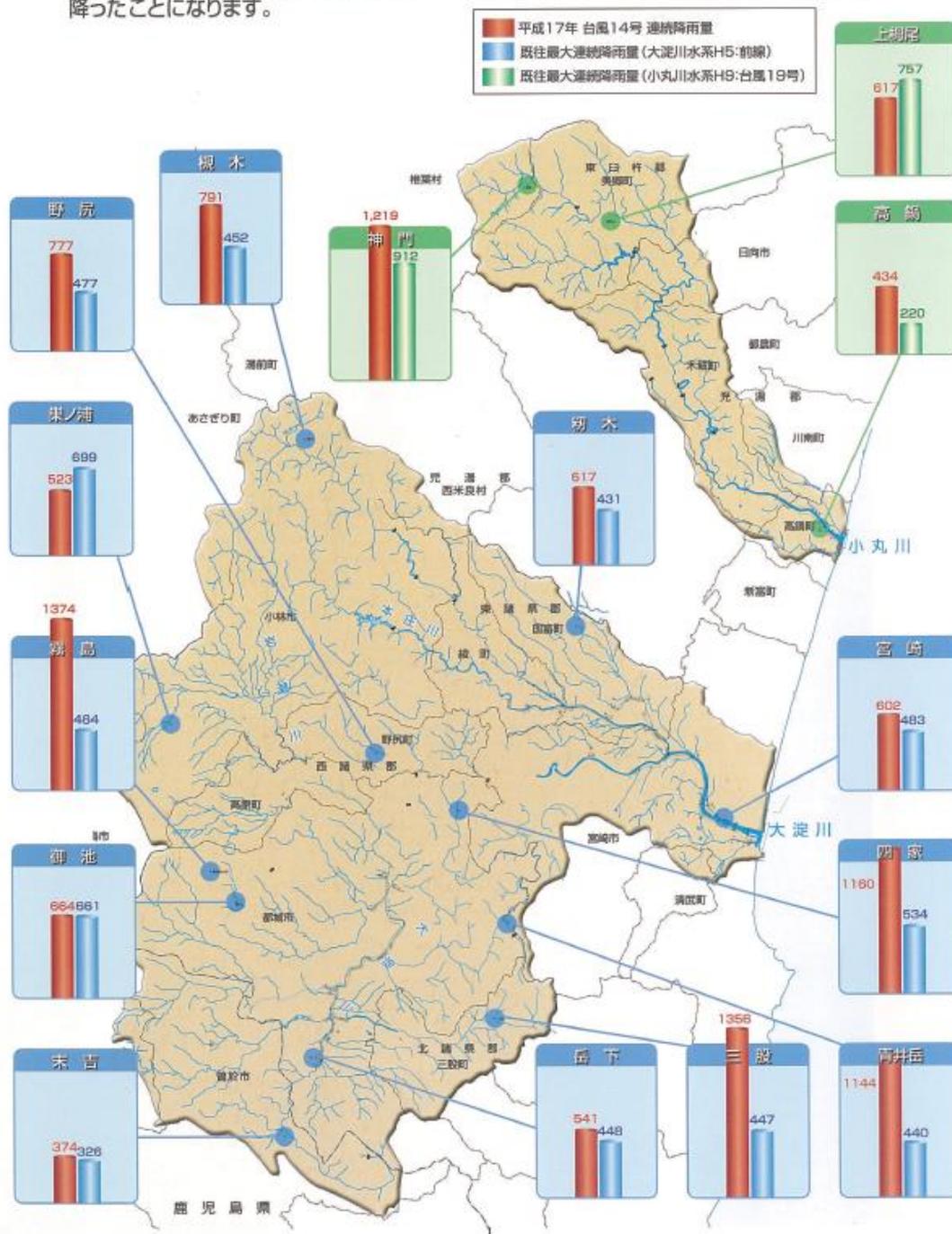


出典：大淀川水系河川整備基本方針（変更）（平成 30 年 6 月）
[国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所]

大淀川・小丸川流域降雨状況

台風14号は、大淀川・小丸川流域に記録的な大雨をもたらしました。

台風14号とこれまでの最大雨量を比較すると、大淀川は約1.5倍、小丸川は約1.4倍の雨が降ったことになります。



出典：水害の記憶（出版年不明）[国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所]

宮崎市



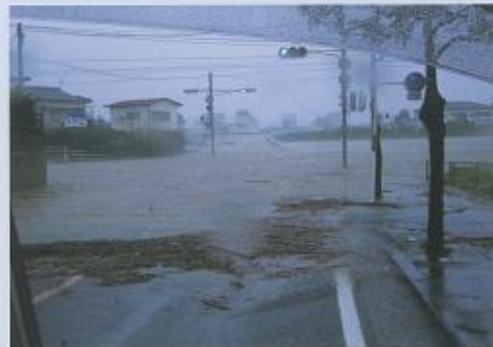
宮崎市吾妻町 大淀川左岸 (2k800)



宮崎市吾妻町 大淀川左岸 (2k900)



宮崎市中村町 国道220号 大淀川右岸 (3k900)



宮崎市下小松 支川大谷川右岸 若宮橋付近



宮崎市下小松 支川大谷川 油出橋下流



宮崎市下小松 大淀川右岸 (7k800)

出典：水害の記憶（出版年不明）[国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所]

宮崎市



宮崎市下小松 大淀川右岸(7k900)



宮崎市小松 大淀川右岸(8k000)



宮崎市下小松 県道17号をのぞむ
大淀川右岸(8k700)



宮崎市下小松 平和台大橋上流 大淀川右岸(8k700)



宮崎市上北方 県道26号 大淀川左岸(9k800)



宮崎市上北方 水辺の楽校 大淀川左岸(10k000)

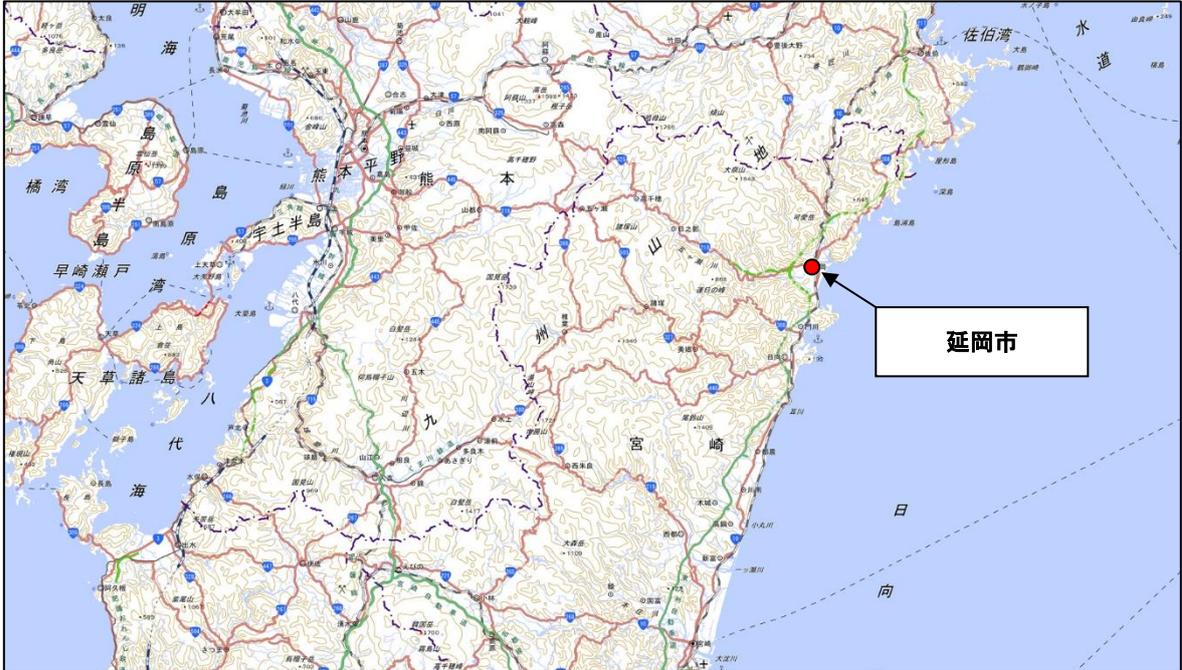
出典：水害の記憶（出版年不明）[国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所]

▼大淀川水系既往洪水の概要

洪水名 (発生原因)	流量(m ³ /s) ^{※1} <柏田>	被害状況 ^{※2}	備考
S11年7月22～23日 (暴風雨)	不明	死者 : 3名 負傷者 : 2名 家屋全壊: 6戸 家屋半壊: 7戸 家屋流出: 7戸 家屋浸水: 5173戸	昭和2年 大淀川下流、本庄川下流の直轄改修工事 計画高水流量: 5,500m ³ /s<宮崎地点>
S18年9月18～20日 (台風第26号)	不明	死者 : 114名 負傷者 : 161名 行方不明: 1名 家屋全壊: 567戸 家屋半壊: 1165戸 家屋流出: 508戸 床上浸水: 9361戸	
S24年8月14～16日 (台風第9号)	不明	死者 : 7名 負傷者 : 15名	昭和24年 大淀川上流の直轄改修工事 計画高水流量: 3,000m ³ /s<樋渡地点>
S29年9月10～13日 (台風第12号)	約7,000	死者 : 5名 負傷者 : 10名 家屋全壊: 72戸 家屋半壊: 215戸 家屋流出: 28戸 床上浸水: 3173戸 床下浸水: 5303戸	昭和28年 総体計画 計画高水流量: 4,000m ³ /s<樋渡地点> : 7,000m ³ /s<宮崎地点>
S46年8月26～30日 (台風第23号)	約6,000	負傷者 : 4名 家屋全壊: 4戸 家屋半壊: 6戸 床上浸水: 294戸 床下浸水: 1083戸	昭和39年 総体計画 基本高水のピーク流量: 7,500m ³ /s<宮崎地点> 計画高水流量: 7,000m ³ /s<宮崎地点>
S57年8月24～27日 (台風第13号)	約7,800	家屋半壊: 18戸 床上浸水: 264戸 床下浸水: 463戸	昭和40年 工事実施基本計画 基本高水のピーク流量: 7,500m ³ /s<宮崎地点> 計画高水流量: 7,000m ³ /s<宮崎地点>
H1年7月24～8月3日 (台風第11号)	約7,000	家屋半壊: 62戸 床上浸水: 79戸 床下浸水: 323戸	
H2年9月27～29日 (台風第20号)	約6,300	行方不明者: 1名 負傷者 : 5名 家屋全壊: 2戸 家屋半壊: 57戸 床上浸水: 1187戸 床下浸水: 1908戸	
H5年7月31日～8月2日 (前線)	約7,700	死者 : 1名 負傷者 : 2名 家屋全壊: 12戸 家屋半壊: 2戸 床上浸水: 771戸 床下浸水: 784戸	平成15年 河川整備基本方針の策定 基本高水のピーク流量: 9,700m ³ /s<柏田地点> 計画高水流量: 8,700m ³ /s<柏田地点>
H9年9月14～16日 (台風第19号)	約8,000	死者 : 2名 負傷者 : 3名 家屋全壊: 1戸 家屋半壊: 24戸 床上浸水: 401戸 床下浸水: 586戸	平成17年 大淀川激甚災害対策特別緊急事業
H16年8月29～30日 (台風第16号)	約7,300	負傷者 : 7名 家屋全壊: 2戸 家屋半壊: 5戸 家屋流出: 7戸 床上浸水: 164戸 床下浸水: 203戸	平成18年 河川整備計画の策定 河川整備計画の目標流量: 8,100m ³ /s<柏田地点> 河道の配分流量: 7,200m ³ /s<柏田地点>
H17年9月4～6日 (台風第14号)	約10,500	家屋全壊: 908戸 家屋半壊: 2147戸 床上浸水: 3834戸 床下浸水: 872戸	平成28年 河川整備基本方針の変更 基本高水のピーク流量: 11,700m ³ /s<柏田地点> 計画高水流量: 9,700m ³ /s<柏田地点>

出典: 大淀川水系河川整備基本方針(変更)(平成30年6月)
[国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所]

宫崎県延岡市位置图



出典：国土地理院

【延岡市の水害】

- 宮崎県延岡市は五ヶ瀬川と大瀬川を中心に街並が形成された城下町であり、「水郷のべおか」といわれるように豊かな水と自然に恵まれている。
- 延岡市は市街地を貫流する五ヶ瀬川、大瀬川と支流の祝子川、北川の四つの川が合流し日向灘へ流れ込むため、一たび水害が発生すると、その被害は甚大なものとなる。



▲延岡市の五ヶ瀬川流域地図 出典：国土地理院

- 五ヶ瀬川流域の洪水は原因の多くが台風である。台風が接近すると日向灘の湿った空気が一気に九州山地に吹き寄せて、急激に雲が発生し、豪雨をもたらすために洪水が頻繁に発生する。五ヶ瀬川流域に降った豪雨は一気に延岡市内に流れ込み、大きな被害が幾度も発生している。



▲平成17年9月4日～7日
岡富地区（五ヶ瀬川 3k000 左岸）



▲平成17年9月4日～7日
小峰地区（五ヶ瀬川 6k900 左岸）



▲平成17年9月4日～7日
川島地区（北川 3k000 左岸）



▲平成17年9月4日～7日
北小路地区（五ヶ瀬川 3k400 左岸）

出典：国土交通省 九州地方整備局 河川部